

7月1日 びわ湖の日

みんなで探してみよう
暮らしの中でできること

琵琶湖の富栄養化による水質悪化が大きな社会問題になっていた1970年代に、富栄養化の原因となる窒素やリンを含む合成洗剤ではなく、粉石けんを使うという「石けん運動」が市民を中心に始まりました。1980年、全国に先駆けて窒素・リンの排出規制を定めた「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例（琵琶湖条例）」が施行され、翌年この条例が施行された7月1日が「びわ湖の日」に決まりました。

「びわ湖の日」40周年を迎える今年、滋賀県は琵琶湖を愛する多くの皆さんとともに、新たに「マザーレイクゴールズ（MLGs）」、いわば「琵琶湖版のSDGs」を策定しました。びわ湖のために身近にできることから始めましょう。私たちの小さな一歩が、日本、そして世界の未来へとつながっていきます。

40周年



これまでの取り組み

1. 琵琶湖をきれいにしよう

県内全域で一斉清掃

「びわ湖の日」前後に、例年10万人以上の県民が参加して、琵琶湖岸を中心に河川や道路など県内全域で一斉清掃が行われています。



▲びわ湖を美しくする運動



2. 豊かな琵琶湖を取り戻そう



▲ルールキッズ

▶ 外来魚駆除

「びわこルールキッズ」を開催

小・中学生を対象に、外来魚リリース禁止に協力してもらう「びわこルールキッズ」を開催。

そのほかにも、外来水生植物の調査と駆除が行われています。



▲外来植物駆除

3. 琵琶湖にもっと関わろう



▲ピワイチ



▲琵琶湖博物館



▲滋賀県産品

広める、食べる、学ぶ

県内のコンビニやスーパーが滋賀県産品を素材とする商品を企画し、期間限定で発売。

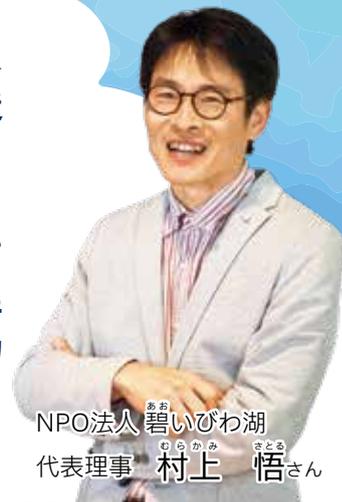
学校給食で湖魚メニューが食べられています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、内容の変更や外出自粛のお願い等をしている場合があります。ホームページ等で最新の情報をご確認ください。

身近なことから行動を!

「碧いびわ湖」は2009年、石けん運動などに取り組んできた、全国唯一の滋賀県環境生活協同組合から事業を継承して設立されました。牛乳パックや廃油を回収してリサイクルされた商品を届ける共同購入、山の木や雨水を活用した住まいづくり、子ども・若者が生き生きと育つ地域づくりをはじめ、幅広く活動しています。

石けん運動のベースには、人と人がつながり、みんなが自発的に行動することを助け合う「滋賀の自治文化」があります。これからの10年、あたたかい人のつながりを育て「次の世代」の可能性をのびせる社会にしていきたいです。子ども・若者の未来を想い、まずは自分たち大人も楽しめることから始めてみませんか。



NPO法人 碧いびわ湖
代表理事 村上 悟さん

「びわ湖の日」40周年記念シンポジウム



- 日時** 令和3年7月11日(日)13:00 ~ 16:00
- 場所** 琵琶湖博物館 大ホール(滋賀県草津市下物町1091)
- 内容**
 - ・ココロコ 田中直樹さん、気象予報士 片平敦さんによる基調講演
 - ・知事と「マザーレイクゴールズ(MLGs)」策定に携わった一般社団法人インパクトラボ代表理事の上田隼也さんによる対談を行います。



申込方法
こちらから、お申し込みください。(びわ湖放送 HP)

お問合せ びわ湖放送「びわ湖の日」40周年シンポジウム事務局
TEL 077-524-0153

「びわ湖の日」40周年記念企画

「びわ湖との約束」絵手紙募集!!

応募いただいた方には「びわ湖の日」40周年景品プレゼント!



◀ 詳細はこちら

フォトコンテスト作品募集!!

琵琶湖をはじめ、未来につなごう山や川、人々の暮らしなど、メッセージとともに心動かす作品を募集します。

入選作品は県内で巡回展を開催やプレゼントも実施!



▶ 詳細はこちら

7月1日生配信「知事と! 西川大使と! 「びわ湖」のこと考えてみ~ひん?」

「びわ湖の日40周年」をテーマとした三日月知事と西川貴教さんのクロストークを生配信します!



日時
7月1日(木)
(びわ湖の日)
10:45 ~ 11:15

視聴方法
滋賀県広報課
YouTubeチャンネル
「shigakoho」



2030年に向けて

びわ湖とびわ湖に根ざす暮らしに向けた13のゴール



Mother Lake Goals
変えよう、あなたと私から



Mother Lake Goals

変えよう、あなたと私から



「マザーレイクゴールズ(MLGs)」とは？

MLGsは、2030年に環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環をつくるため、琵琶湖を切り口として13のゴールを設定したものです。



私たちの取り組みとSDGsとの間におく、琵琶湖を切り口とした目標がMLGsです。

高校・大学で学生新聞の取材・編集をした経験から、情報発信のためにはデザインが重要だと感じて、独学でデザインを勉強してきました。現在は大学生であると同時に、SDGsの達成を目指す法人に所属しています。

県内外の人が楽しむ場所であり、祈りの対象でもあるという琵琶湖の魅力を伝え、琵琶湖の環境を守る活動にこれからも関わっていきたくと考えています。

琵琶湖は暮らしを映す鏡、琵琶湖から地球の環境や問題を考えようというメッセージを表現したロゴデザインです。琵琶湖を中心に、MLGsをSDGs達成につながるという目標を伝えるために、琵琶湖を取り巻く滋賀と地球をイメージした丸い形でゴールの13色を配しました。「自分たちの暮らしに根ざす」というコンセプトから、ゴールとロゴの色はすべて日本の伝統色を使っています。



Mother Lake Goals

立命館大学
一般社団法人
インパクトラボ
理事
吉武 莞さん



MLGsの
ロゴを
デザイン



「MLGs」の13のゴール達成に向けて

私たちができること



身近なことから始めよう！



守る

釣りを楽しんで豊かな生態系を守る



釣った外来魚はリリースしない。

遊ぶ

山や森林での遊びも琵琶湖につながる



身近な自然に親しむ。

暮らす

環境に配慮したものをつくる・選ぶ



魚のゆりかご水田の田植えに参加。

学ぶ

なぜヨシや里山が大切？身近な自然について調べる



みんなで博物館へ行ってみよう。

食べる

滋賀県産の米や野菜も琵琶湖のめぐみ



滋賀県産の食材を日々の食卓に。

©株式会社フラン 提供

琵琶湖に関わる活動に参加してみませんか？



イベント情報

滋賀県HP
びわ活ガイド



新型コロナウイルス感染症の影響により、内容の変更や外出自粛のお願い等をしている場合があります。ホームページ等で最新の情報をご確認ください。

民間企業の取り組み 伊藤園

「お茶で琵琶湖を美しく。」キャンペーン



平成20年より、お〜いお茶全飲料の売上げの一部を琵琶湖の環境保全(ヨシ保全)に寄付しています。



ボランティア活動を実施



平成20年より、琵琶湖周辺におけるヨシ刈りを行っています。